

カラマツ林と牧場が広がる夏風景。コース終了のご褒美のソフトクリーム。清里高原で過ごす夏の日

パーマネントコース紹介
「清里美し森」コース 山梨県 No.30
JOA公認 No.47 10km 10ポスト

PCは道づれ

東京出張からそのままお盆休みに入ったこの夏。久々に首都圏のコースを回ろうと計画していると、PCめぐりを愛する仲間から「この夏は東京にこないのですか」と尋ねるメールがひらりとやってきます。

メールの主はいつもアグレッシブに活躍されている群馬の太田市在住の土井洋平さん。毎週どこかの山にでかけ、新鮮な情報を送ってくれる頼もしい人なのです。

今回のレポート、「清里美し森」のリニューアル情報を昨年の夏に伝えてくれたのも、この土井さんでした。「足になりますよ～」というお誘いに甘え、取材を兼ねたコースめぐりにお付き合いいただくことにしました。

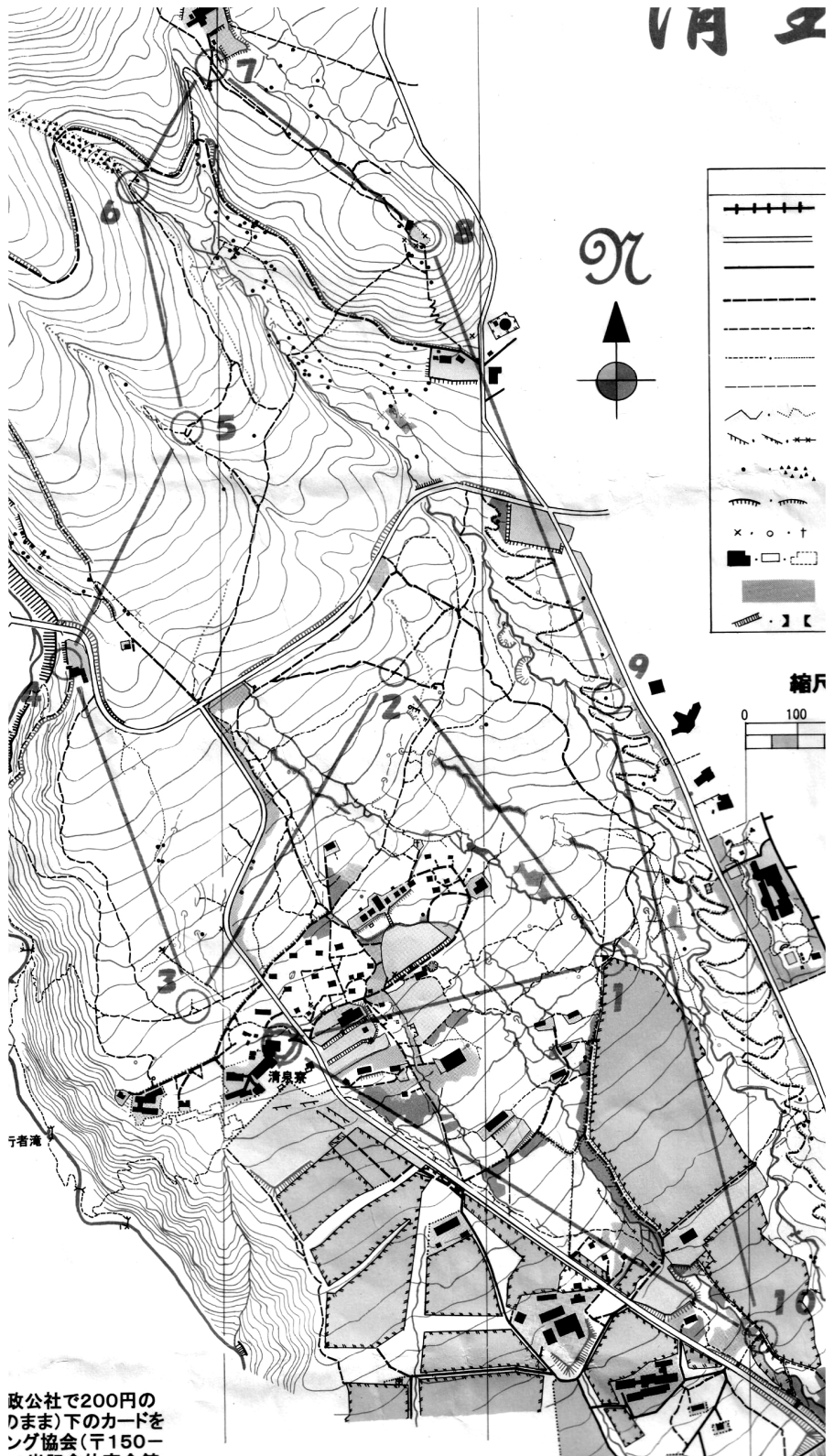
8月6日、7日の出張を終え、金曜日の夜は立川に宿泊します。翌日の場合は立川駅前に早朝5時半。群馬からやってくる土井車の出発時刻はいつたか何時の出発なのでしょう。立川を集合場所にしたのは、この日のもう一人のメンバー、高見博道さんのお住まいが青梅であること。お盆帰省の中央道をスムーズに滑り込むのが狙いです。

PCブームのさなかに幼少時代を過ごしたアラフォー3名を乗せた車は、集合早々に嫌らしい国家権力の餌食になるハプニングと、20kmにも及ぶ高速道路の藪漕ぎに遭遇しつつも、たくましく高原地帯へと到達します。

この日の天気は午後から雨の予報。中央高速では青空も見えていたのが、八ヶ岳山麓にやってくると怪しい雲行きに…。コンビニで休憩の後、高度をぐいと上げてくるとガスに包まれ、嫌な予感の中かと思われました。しかし、スタート地点の清泉寮が近づくと何とか視界が開けひと安心。

スタートは清泉寮

清里コースは今回の更新で、昭和47



政公社で200円のりまま)下のカードを
ング協会(〒150-

年の開設以来のスタート地点であった小海線清里駅に別れを告げています。駅から清泉寮までは徒歩で20分ほど。レトロなスタイルで高原地帯をのんびり走る清里ピクニックバスを利用する

と5分で到着します。

キリスト教の一教派である聖公会の男子信徒の集まり「聖徒アンデレ同胞会(BSA)」の日本における指導者訓練キャンプ場として清泉寮が設立され

たのは70年余り前の1938年のこと。日本のフットボールの父と言われるポール・ラッシュによるものです。戦後には、国土復興を山間部の開拓に求めた農村センターがこの清泉寮を拠点に建設されました。これを「清里教育実験計画（KEEP）」といい、その後の八ヶ岳地域開発のみならず、戦後日本の農村復興のモデルとなっています。

清里観光の目玉は清泉寮のソフトクリーム。この日も早い時間から賑わいを見せています。今でこそ清泉寮＝ソフトクリームという印象が定着していますが、意外にその歴史は浅く、昭和51年に喫茶メニューとして登場したのが始まりです。このお楽しみはまた後ほど。

宿泊施設でもある清泉寮の本館フロントでマップを入手することが可能です。この他、清里高原ホテル、美し森ファーム、羽村市自然休暇村でもマップの扱いがありますので、安心してお出かけください。

マップには既にコースが印刷済みで、スタート地点を表す案内板は設置されていません。胸像のポール・ラッシュさんに見守られながらスタートします。前回の91年当時と比較すると、スタートから第4ポストと最終ポストが変更になっています。現在の地図は4訂版。18年前は初版だったわけですが、この版には道の記されてなかったエリアにスタート早々分け入っていくことになります。



最終ポスト発見！ 高見（左）と土井（右）

八ヶ岳の高原をめぐる

八ヶ岳自然ふれあいセンター横から草原地帯を横切り、その西端から続く自然観察路を選びます。チップを敷き詰めた足にやさしい自然歩道、すれ違わず家族連れも楽しげです。春から秋にかけてはジャージー牛が放牧されるという牧草地を見渡すウッドデッキに程なく到達。すぐ近くにある第1ポストは巧みに隠されていて探索が楽しめます。

1年前にも歩いている同行のお二人は、競技にも頻繁に参加される本格的なオリエンティア。今回は最短経路をグ

イグイと突き進んだそうです。今回は、PCらしく分かりやすい道をトレースする私の後に着いてきてくれたのですが、異なるルートを進むことに楽しみを見出してくれていた様子です。キープ自然歩道と名づけられた、カラマツ林に続く道を緩やかに登り、放射状に道が多岐に分岐する地点に到達します。等高線に沿ってなだらかな道が伸びる南西方面に転じて間もなく、第2ポストに到達します。

ここからは3つのルートが選択可能です。前回のお二人は真ん中に当たる小径を進んだそうですが、今回は小屋の前を経由する最も南のルートを進みます。このあたりは湧水点も多く、明け方に降ったと思われる雨の影響もあり、道はところどころ巨大な水溜りと化しています。クロスカントリースキーコースの基点を過ぎ、清泉寮のすぐ近くまで戻ると、林のやや開けた地点にある第3ポストはもうすぐです。

第4ポストへのルートは、これまでのコースではマップ外のエリア。穏やかな気分で森林浴を満喫できる素晴らしい林が展開されます。私がこの雰囲気を楽しんでいたところ、後ろを歩く二人は昆虫探索に夢中。蟬の鳴き声を聞き分けては「これはエゾハルゼミだ」なんてスゴイ詳しさです（これは土井さん）。道路に抜けると、川俣渓谷にかかる真っ赤な東沢大橋を臨む展望台に下る階段脇で第4ポストを確認します。

第5ポストへ向かおうと歩き出すと、目の前の土崖を指差し「今回はここから突入した」とまたまたツワモノ発言が二人から。道をまわり、道路のT字交差点から北に続く八ヶ岳横断歩道へと入ります。ここから第9ポストまでは従来のコースと同一ルートです。沢を上り詰めた先には昭和10年に天然記念物に指定されたという美し森の大ヤマツツジがあり、第5ポストもすぐそばに置かれています。91年に歩いたときは、開設当初のポストが×印を付けられてそのまま置かれていましたが、今はその姿を見ることはできません。

ここから第6ポストまでも森林美に包まれる印象的なルートです。マツ科では珍しい落葉樹であるカラマツの高木が垂直に林立する中を歩いていきます。こんな自然に身を委ねていると、自分がとても小さな存在に感じられるでしょう。沢を横断する地点にあるポストは、以前の印象と違わぬ佇まいを見せています。

このコースで最も急な坂道をひよい

と通過して尾根を回り込み、小川と見紛いそうになる沢沿いの小道に入ります。力強く上っていくと、分岐の第7ポストは簡単に見つかります。

次の第8ポストがクライマックスの美し森展望台。二手に分かれるルートはいずれもここに導いてくれます。標高1,542m、雲に包まれてしまった八ヶ岳は残念ながら仰ぎ見ることは叶いませんが、眼下に広がる高原の景色は遠くまで見渡すことができました。ポストは以前と同じ場所で待っていてくれます。

多くの観光客に紛れて木道の階段を下り、美し森交差点までやってきます。ここからこのコース終盤の特徴とも言える、八ヶ岳高原サイクリングロードが待ち構えています。何度も蛇行するこのルート、前は興味本位で正直になぞっていましたが、今回はサイドの八ヶ岳高原ラインをまっすぐ下ることにします。右手に接近してくる道で現在位置を確認しつつ、岩陰にある第9ポストにピタリと到達します。

最終ポストも同様にショートカット。清里の森入口交差点まで、緩やかな下り坂を軽快に進んでいきます。交差点から続くキープ自然歩道に入り、木でできた橋を渡ると、白い柵に囲まれた牧草地が広がります。ここは第1ポストから見渡せた牧草地の最南端にあたります。牧場ならではの巨大トラクターに試乗する家族連れの姿を眺めつつ、乳しぼり体験にそそられつつ、百合の咲く牧場沿いを進み、最後のポストを無事確認します。

清泉寮まではただただ道路を歩くだけ。上り坂をもうひと踏ん張りです。

ゴール後のご褒美はもちろんソフトクリーム。濃厚な牛乳の味が口いっぱいに広がる逸品です。

昼食に信州そばを食べた後、4コースが設置されている霧ヶ峰高原にも足を伸ばします。土井さんは中級コースを歩き、高見さんは私と一緒に最もハードな上級IIコースを回ったのち、俄かに降り出した豪雨をものともせず、かつての唐松コースをも走破。その無尽蔵なスタミナには驚くばかりです。

終了後、洋風建築でお馴染みの上諏訪にある片倉館で温泉につかり、甲府に移動して信州ほうとう&ビールというスペシャルなアフターPCも満喫したのでした。

(2009年8月8日 踏破)

(大高竜亮)